

# ことばを読み 世界を読み 人の気持ちを讀む力・ 表す力を育てる

——第五学年の伝統的な言語文化の授業から——

宗 像 郁 子

## 1. はじめに

学習指導要領において、伝統的な言語文化に関する事項が位置付けられており、我が国の言語文化に親しむことの重要性が示され、今まで以上に伝統的な言語文化に触れるような授業の在り方が望まれている。前任校東広島市立原小学校での伝統的な言語文化の実践を以下述べる。

原小学校は東広島市の南西に位置する小規模校である。以前より取り組んできた文学的な文章の読みの研究を土台に伝統的な言語文化を通して「読む力」「表現する力」を育てる指導のあり方の研究をしている。

研究主題を、「ことばを読み 世界を読み 人の気持ちを讀む力・表す力を育てる」伝統的な言語文化を通して」とし、研究仮説を「国語科等の学習において、伝統的な言語文化にふれる教育内容を創

造すれば、児童は伝統的な言語文化に親しみ、読む力・表現する力をつけることができるであろう」とした。そのための手立てとして

(1) 伝統的な言語文化に親しむ場の設定

(2) ことばに着目した読みの指導

(3) 味わったことを表現する場の設定をすることにした。

「読みの指導の充実」を図ることを軸として、「伝統的な言語文化に関わる単元開発」に取り組む、児童の「読む力」「表現する力」を伸ばしていきたいと考え研究に取り組んだ。

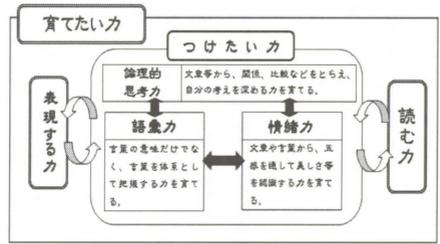
児童につけていきたい具体的な三つの力を語彙力・情緒力・論理的思考力とした。

語彙力は、言葉の意味だけでなく、言葉を体系として把握する力、情緒力は、文章や言葉から、五感を通して美しさ等を認識する力、論理的思考力は、文章等などの関係、比較から論理を考える力と捉えた。

この三つの力と「読む力」「表現する力」は相互に絡み合いながら

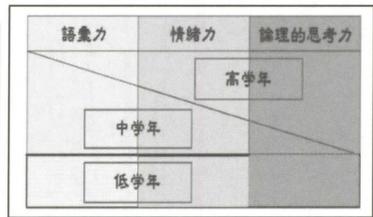
〈伝統的な言語文化に関する学習系統表〉

年	口語調		文語調				創作
	リズム	読む	読む				
1年	ことばあそび かぞえうた わらべうた 早口ことば	音読	いろはから た				表現
2年		音読 比較 民話	短詩				音読
3年	かるた遊び 口上	どんな話 源とし話	俳句 (季節)			慣習句 ことわざ	俳句 川柳
4年	文部会唱歌	どんな話 (比較)	俳句 (季節)	連歌 川柳 百人一首	昔の話	慣習句 ことわざ	俳句 川柳 連歌
5年	文部会唱歌 近代詩	近代文字	俳句 (情景)	百人一首 短歌	古文	漢詩	俳句 短歌 随筆 漢詩
6年		近代文字 (比較)	俳句 (思い) (技法)	百人一首 短歌	古文	漢詩	俳句 短歌 随筆 漢詩



【教材の特質に応じた授業の流れ】

口語で書かれた遊びうた、カルタなどリズムや言葉のおもしろさを楽しむ学習	①音読→②さまりを見つける(一般化)→③活用(創作)→④交流
口語で書かれた昔話、民話などの学習	①音読→②視覚提示→③語彙力を補う→④気持ちや様子进行像→⑤感想をもつ→⑥交流→⑦音読
古文、漢文、近代以降の文語調の文章などの学習	①音読→②全体像をつかむ→③自分の考えをもつ→④口語訳をもとに自分の考えと比較→⑤表現→⑥意見交流→⑦まとめ



## 2. 開発単元について

新学習指導要領施行前に、次のような単元開発を行った。

【20年度開発単元】

1年	かぞえうた	あいうえおはいく	いろはかるた
2年	三歌のお札 ねずみの糞入り(音話)	ねずみのおすもう (紙芝居)	太郎シリーズ(音話)
3年	俳句入門	まんじゅうこわい (落し傘)	時そば(落し傘)
4年	鳥獣戯画(連歌)	吉四六話、ねこまた (徒然草)	扇の的(平家物語)
5年	徒然草	連歌	春曉・杜南の絶句
6年	枕草子	芭蕉の心(俳句)	短歌から読み取る茂吉の心
ひまわり	ひまわりかるたをつつてあそぼう	ひまわり座 ザ・紙芝居 「ねずみのすもう」	

伸びていくものと考えられる。図のように児童の発達段階に応じて、指導の重点は異なっている。そして、児童の発達段階に即した伝統的な言語文化に関する学習系統表を作成した。また、教材の特質に応じた授業の流れも考えた。

【21年度開発単元】

1年	言葉をつなげてあそび歌を作ろう!	めざせ! ことばあそび名人 ~わらべ歌編~
2年	ここが大好き! おむすびころりんポストーを作ろう	むかし話のおもしろさをあじわおう~ 二人のじいさま編~
3年	お笑い掲示板	お笑い掲示板 ~楽し編編~
4年	原小4年流 狂言「清水」	おもむく語を三十一文字(みそひとも) じて伝え隊
5年	なるほど! 昔のお話から(名人編)	漢詩の世界にふれ オリジナル五言絶句を作ろう!
6年	無常の世に生きた人々を訪ねて~ 「平家物語、方丈記の世界」新聞を作ろう	生きる知恵に学ぶ ~論語を読み、生活に生かそう~
ひまわり1	見て 聞いて 感じて	人形劇をしよう 「にぎりめごろごろ」
ひまわり2	おはなし会をしよう 「おおきな かぶ」	紙芝居屋さんになろう 「ももたろう」

### 3. 日常的な取組について

特設の「和楽タイム」を週一回実施した。取り上げた伝統文化について学んだことや感じたことを専用の「和楽ノート」に整理することにより、豊かな感性を育てることをねらいとした。

また、毎月一回古典検定を行った。児童一人一人が「和楽」という古典集を持っており、俳句6句暗唱でできれば10級、というように級を設定して、児童は自分のペースで上の級をめざし暗唱練習をした。

この他にも、やまびこ朝会での全校群読や学年発表、原小のオリジナル総合表現「あやめの前伝説」の発表など、さまざまな場で伝統的な言語文化の音読暗唱指導を行ってきた。

【古典検定】



【あやめの前伝説】



【やまびこ朝会】



### 4. 実践例①「なるほど! 昔のお話から(名人編)」

徒然草百九段「高名の木登り」文語文、百十段「双六の上手と言ひし人に」口語文を主教材として取り上げた。二作品とも、歯切れのよい文体で話の筋が明快であり、現代まで通じる普遍的内容が描かれている。内容を捉えて読んだり、自分の体験をふまえて感想を

まとめたりするのに適した教材である。また、名人に問う、名人の返答に教えが表れる、最終部に兼好法師の思いがまとめられているという構成は二作品とも共通であり、比べて読んで共通点を見つけたり、昔の人のものの見方や感じ方を考えたりすることができると考えた。

単元の目標の一つ目を学習指導要領第五学年および第六学年の読むことの内容のねらいから登場人物や場面についての描写を捉え、自分の考えをまとめることとした。二つ目に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項アの(ア)(イ)より文語文の内容を捉えながら音読するとともに、昔の人のものの見方や感じ方を知ることとした。

授業パターンはどちらも、音読↓全体像をつかむ↓考えをもつ↓表現↓グループで意見交流↓全体で意見交流↓まとめの感想という流れで行った。

始めの音読の段階で、「高名の木登り」では特に、追い読み、群読、役割読み、一人読み、二人読みなどのさまざまな方法でしっかりと音読させ、文章の流れやリズムを感じ取らせた。

読解の段階では大まかな内容は、国語辞典を使って語句の意味を調べ、難語句は教師が説明をした。兼好法師の言葉を水色、キーワードとなる名人の言葉を黄色の紙で示しながら捉えていった。

名人の「あやまちは、やすき所になりて 必ず仕ることに候ふ」という言葉から自分が考えた意味をまとめ話し合った。まとめたものを交流することで一人一人の感じ方の違いに気付かせることができた。

最後に、感想や作品が示唆することについての考えを70字〜80字でまとめた。

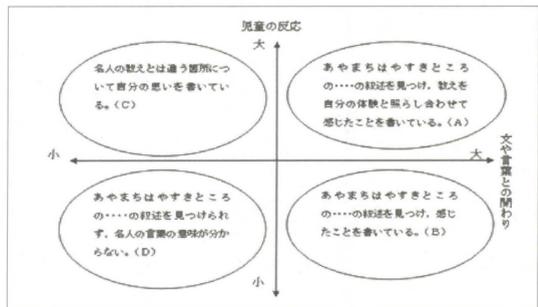
第三次の読解の確かめの段階では、二つの作品の共通点を話し合ったり、他の名人の話を聞いたたりして、昔の人のものの見方について考えさせた。共通点を話し合うことで、二つの作品の比較から論理を考える力(論理的思考力)を伸ばすことや、今日まで読み継がれてきた不易の心について自分の思いを深めることができた。

第三次で児童がまとめたもの

のを「読解と表現の見取り表」をもとに分析した。児童の反応を縦軸、文や言葉とのかかわりを横軸にし、一人一人の感想を見とっていった。児童の反応については、思いがしっかりと書けているものが、上の段になる。文や言葉とのかかわりについては、叙述を的確にとらえているものが、右側になる。A・B領域にあるものが、本時の評価規準を達成するものとした。

そして、創作(発展)の段階では、第一次から第三次で書きまとめたワークシートを切り取って、新聞にした。名人の教えについて

【読解と表現の見取り表】





の自分なりの思いが読み手に伝わる新聞になった。

上の段は、第一次「すごろく名人」の学習でまとめたものである。兼好法師がたずねた言葉、名人の答え、自分が考えた言葉の意味、そして、意見交流をした後の感想をまとめている。真ん中の段は、「高名の木登り」の学習でまとめたものである。「すごろく名人」と同じ流れで行ったので、児童は学習の仕方が分かり、主体的に考え、まとめることができた。下の段は、二つの作品を比べて共通点を話し合いまとめた。また、徒然草の中にある「馬乗り名人」「弓名人」の段の読み聞かせを聞いて、考えたことをまとめた。

取組により、ことばに着目し、ことばの持つ様々な意味に気づくとともに、ことばの機能を知ることによって語彙力を伸ばすことができた。

昔の人の思いを捉え、自分の思いと比べるなどの活動を通して、伝統的な言語文化は自分を豊かにするものであることを実感し、情緒力を養うことができた。また、分かっていることをつなぎ合わせながら古文を読み進めたり、名人の教えを自分なりにまとめたり、二つの話を比較して共通点を探ったりする活動は、論理的思考力の育成につながるものであったと考える。

読みの評価を行うために、自作の読み取りテストを作成した。到達率が91%とまずまずの結果だった。また、「読解・表現」見取り表をもとにしたA、B評定の児童の割合は87%であり、児童がその時間に読んだことをノートに的確に表すことができつつある。意識調査とあわせて、授業検証においても三つの力についての検証を行った。

## 5. 実践例②「漢詩の世界にふれオリジナル五言絶句を作ろう!」

漢詩「春曉」と「絶句」を主教材として取り上げた。漢語的表現は端的で洗練された言葉の響きやリズムがある。リズムを感じながら音読することにより言語感覚を豊かにすることができる。

「春曉」と「絶句」はともに五文字四句の五言絶句で、場面や作者の心情を想像し、読むのに適した教材である。「春曉」は「起承転結」の構成法で余韻を残した収束となっている。「絶句」は前半二句に美しい風景が描かれ、後半では風景を前にした作者の悲しみに沈む思いが詠われている。漢文の世界にふれることは、漢字の奥の深さを理解するとともに、洗練された言葉の使い方や表現の美しさを

感じ取ることができると考えた。また、読みを通して学んだ構成で自分なりの簡単な五言絶句を作ることも楽しんでできると考えた。

単元の目標の一つ目を学習指導要領第五学年および第六学年の読むことの内容のねらいから心情や場面をあらわす表現を味わいながら読み、自分の思いをまとめることとした。二つ目に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項アの（ア）より親しみやすい漢文について、内容の大体を知り、音読することとした。

第一次では和語や漢語、身近な漢文を取り上げ、漢字の奥深さにもふれさせた。それまでに教科書単元「熟語の意味を考えよう」で熟語の意味を推測することや、熟語の構成を捉えることを学習し、漢字の持つ意味について関心をもっていたこともあり、意欲的にさがすことができた。次にあるような言葉を漢和辞典や国語辞典を使つてさがした。

○和語と漢語……年月、上下、工場、市場、草原、生物、見物、

筋肉

○同音異義語

みる……見る、診る、観る、看る、視る

あか……赤、紅、朱、丹、緋、赭

○四字熟語……各自が調べ、短冊に書き、全員分を掲示

第二次は漢詩「春暁」「絶句」の読みに挑戦した。子どもたちと漢詩とは初めての出会いである。学習パターンは「なるほどー昔のお話から（名人編）」と同じである。まずは読み方から始めた。様々な読み方で何度も読むようにした。リズムに親しむとともに、何度も

繰り返して読むことにより、

詩の内容の概略がつかむことができた。そして漢字の意味

それから、作者の思いを読み取っていった。あらかじめ書き下し文をあたえておいたの

で、漢字の意味と併用することにより、情景や心情がとら

えやすくなった。「絶句」では、杜甫の境遇について中国

の地図を掲示し、故郷から遠く離れ、容易に帰郷できない

ことを気付かせた。ノートに想像したことを書き込ませ、

友達と交流して作者の思いを考えた。

グループ交流、全体交流を通して、前半の色彩を表す表現の碧と青、白と赤の対比や、目に見えるものの表現の河と山、鳥と花の対

比に気付きながら、後半の看又過、何日は帰年から作者の思いを考

えることができた。春も晩春であるという読みもできる児童もいた。学習の振り返りで感じたことを50字程度の短い文に書き学習の見取

とした。全員が50字以上にまとめることができた。

授業の最後に中国語の音読を紹介した。児童からは驚きの声があり漢詩に対する関心が高まった。



# 原バージョン「絶句」

<p>瞬風 晶</p> <p>氣持高緊張 友応援耳入 我一瞬風成 納得結果良</p>	<p>百鬼出 明日香</p> <p>山中料理作 米美味成功 友中心熱炎 夏思出楽覚</p>
<p>忘驚 祥恵</p> <p>朝驚出来事 驚似大鳥現 後鳥白色美 秋初見光景</p>	<p>北旭動行 菜央</p> <p>長月動園行 姿近観感動 珍物居我嬉 遅回知日暮</p>
<p>発表会 望美</p> <p>冬段々寒時 我練習力励 間違時々驚 何動五頑張</p>	<p>流星群 龍太</p> <p>親見流星群 我流星望言 世界平和望 叶我友親健</p>

第三次では、五言絶句で詩を作った。いきなり五言絶句で作るのではなく、まず四行の詩を書き下し文として作った。体験をもとに心情や情景に合う漢字を自分で吟味して五言絶句にまとめた。文法的にはおかしな所もあるかと思うが、思いが伝わってくる詩になった。

学習後の自作テストの通過率は86%であった。また、学習後の学習意欲に関するアンケートにおいても「楽しかった」、「作者の思いが分かった」と肯定評価をする児童の割合はともに82%であった。また、日記にも授業の感想や漢詩を書いてくる児童も数名いた。取組により漢字の持つ様々な意味に気づくとともに、漢字の奥深さを知ることで語彙力を伸ばすことができた。詩や漢字の使い方に込められた作者の思いを捉える活動を通して、情緒力を養うことができた。また、分かっていることをつなぎ合わせながら漢文を読み進めたり、自分なりの五言絶句を作ったりする活動は、論理的思考力の育成につながるものであったと考える。

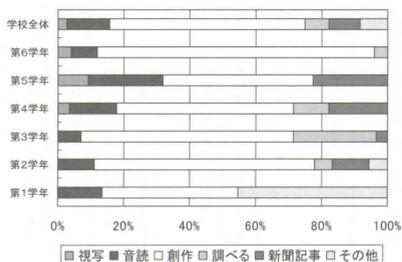
## 6. 成果と課題

以上のような実践を積み重ねることにより、三点の成果をあげることができた。

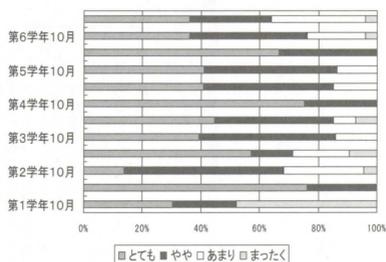
一点目は児童の伝統的な言語文化に対する親しみが深まったことである。さまざまな伝統的な言語文化にふれる場を設けることにより、児童が意欲をもつて楽しく学習していることがアンケート結果からも分かる。伝統的な言語文化に触れる学習や和楽タイムが楽しいと感じている児童が多い。

二点目の成果は言葉や文に着目し、読む力が徐々に高まってきたことである。自作テストや様々な学力検査の結果からも学力の伸びが見て取れるようになった。また、児童の語彙力・情緒力・論理的

和楽タイムの好きな学習内容は何か。



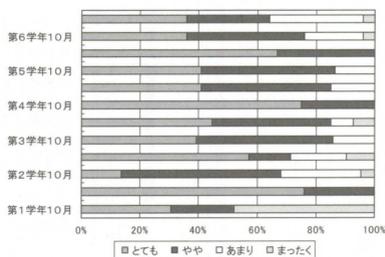
伝統的言語文化にふれる学習は楽しいですか。



【各学年の読解の確かめ・創作などの活動例】

- 1学年 「オリジナル連想あそび歌」をつくる。
- 2学年 「ここが大きい！おむすびころりん」ポスターをつくる。
- 3学年 「お笑い掲示版（とんち話編）」をつくる。
- 4学年 「音読発表会」をする。
- 5学年 「なるほど！昔のお話から(名人編)新聞」をつくる。
- 6学年 「平家物語、方丈記の世界新聞」をつくる。

和楽タイムは楽しいですか。



思考力も伸長させることができた。

三点目の成果は、表現する力が高まったことである。音読↓読解↓表現(評価)↓読み(確かめ)↓創作(発展)の一連の学習過程において、読み取ったことや味わったことを表現させることにより、読みの評価とともに豊かな表現活動にもつなげることができた。和楽タイムでも、児童は創作活動に意欲的であることが、アンケート結果からも分かる。

創作活動を「楽しい」と感じた児童の割合が、五年生で96%となった。伝統的な言語文化で培った「読む力・表す力」は、広がりを見せていった。社会科学や理科で作る新聞においても、児童は、情報を集めて整理したり、考えをまとめたりすることができるようになってきた。伝統的な言語文化の学習に取り組むことにより、児童は伝統文化への興味・関心が高まり、大きな声で音読し、自信をもって発表し、自分の考えを書いていくようになった。次ページにあるのは、伝統的な言語文化の学習で感じたことを新聞に投稿したものである。

一方課題としては、次の四点があげられる。

- ・評価規準と「読解・表現」の見取り表との整合性をより確かにする。
- ・目標に迫るための発問を工夫する。
- ・音読、朗読、暗唱の力をさらに高める指導を工夫する。

小學生 10歳  
 私たちの学校には「和英タイム」という時間があります。日本の昔の物語や童話、俳句や短歌などを勉強します。この前の参観日には「和英タイム」を見てもらいました。勉強したのは「高名の本巻り」です。昔の言葉は今も言葉として使われています。それから読むと、意味がよく分かります。

「野くらりの鳥は下りて、なを用心しつゝついでつゝか」という調子で名人が歌います。「歌いしうで来ると安んじて、けがなどが起こりやすいので

日本の昔話から学ぶ

す」。四字熟語で表すと「出辭大敗」です。この昔から、市のローマレー入大会を強い出しました。もう少してゴールだと思つて逃げました。後うの人とながれました。酒席をたいて「あ、時間があるよのんけりしたため、夜おそくなつてしまつた」ともあります。

名人の教えは、生活のあらゆることに関係しているといひました。これからも「和英タイム」でいろいろな話を勉強したいです。

(東広島市)

小學生 11歳  
 私たちは「国語や漢詩の勉強をしています。漢語や漢語、すべて漢字で書かれています。ひらがなやカタカナが多々あります。」「大分なあとこの感じがしました。」「漢語の勉強を学びました。はじめて、漢語辞典や漢字辞典を使って調べました。漢字一文字にいろいろな意味があるのを知り、それから作者の心がたくさん伝わってきました。」「五言漢詩は、みどりの大きな川に白鳥の姿が目立っていることとです。この一行から、美しい景色が目につく感じがするそうです。でも

続けたい漢詩の勉強

それだから今も漢詩を勉強しています。今年も漢詩の勉強をしています。いろいろな漢詩の勉強をするのだから、と書いています。おもしろい漢詩を勉強したいです。

五言漢詩の勉強も教えてもらいました。昔の中国は戦争があつて、人々の生活は大変なつたそうです。詩として残っていたのは、千二百年くらい前に生きていた人たちの気持ちやわづらひです。これからの漢詩の勉強は、白鳥を学ばしたい、と書いています。

(東広島市)

・言語環境をより整える。

これらの課題を念頭に、現任校でも国語科授業の活性化を、目指して研究を深めていきたいと思う。

(東広島市立八本松小学校)